



胃・大腸カメラが新しくなりました！

令和7年12月、当院の内視鏡が新しくなりました！！内視鏡というと「苦しい検査」「こわい・・・」などマイナスのイメージをお持ちの方も多いと思います。今回の新しい内視鏡（カメラ）はどんな特徴があるのか、実際に検査で使用する内科永澤萌医師に聞きました！



【旧】内視鏡（カメラ）



新 内視鏡（カメラ）



【特徴】

- ◆ 高画質でより正確な診断
- ◆ 鼻、口どちらでも使える細いカメラ



【特徴】

- ◆ 検査時間の短縮
- ◆ 不快感の軽減

このたび当院では、胃・大腸カメラの検査システムおよび内視鏡（カメラ）を、最新の内視鏡システムへ更新しました！

Q. 新しい内視鏡（カメラ）の特徴を教えてください

A. 高画質での観察が可能となり、粘膜のわずかな色調変化や形の変化も確認しやすく、より正確な診断につながります。

Q. 鼻から入れる内視鏡（カメラ）はありますか？

A. 胃カメラ検査では、鼻から入れる経鼻、口から入れる経口のいずれかをお選びいただき、患者さんのご希望や体調に応じた検査が可能です。

Q. 胃カメラは検査がつらくて怖いイメージがあります。新しい内視鏡（カメラ）はどうですか？

A. 細くて負担の少ない内視鏡（カメラ）を、患者さんの状態やご希望に応じて口から使用することもあり、嘔吐反射や検査中のつらさを軽減できるよう配慮しています。

Q. 新しい内視鏡（カメラ）での検査時間は？

A. 機器の進歩により、検査時間の短縮や不快感の軽減も期待され、より安心して検査を受けていただけます。



内科
えいざわ もえ
永澤 萌 医師

当院は今後も、患者さんに安心して検査を受けていただけるよう、設備や検査機器・環境の充実、医療の質の向上に努めてまいります。

フィリピンから！

来日後の特定技能実習生の様子（シャインさん、チアさん）



11月26日 初来院



12月1日 初出勤



近くのスーパーでの買い物支援



勉強もしています



病院給食を初体験

クリスマス会 in 療養病棟

令和7年12月3日(水)



院長サンタが登場！



有志によるバンド演奏♪



サンタクロース、トナカイは病室へも訪問しました！



美女(!?) 3人によるダンス☆



特定技能の2人の紹介



ハンドベルの演奏も♪

【2月】病児・病後児保育は
土日祝日を除いた、
平日の全てが受け入れ可能です

お困りの際は、ご相談ください

※病院が休診の土・日・祝日は利用できません。



巡回診療

2月18日(水) ※第3水曜日

[受付時間] 14時～15時30分

つるぎ会館(上萩山)

診察のない方も、お越しください。
売店の出張販売もあります。



〒689-5211

鳥取県日野郡日南町生山511-7

TEL : 0859-82-1235

FAX : 0859-82-1341

HP : <https://nichinan-hospital.jp/>



病院に対するご意見
ご要望、広報誌に対す
るご意見など、お待ち
しています。

入力フォーム



第二部 討論 「これからも町民のための日南病院であるために」

中村町長をはじめ日南福祉会、消防署、子育て中のお母さん、町立奥出雲病院の職員、日南病院の関係者により次の6つのテーマそれぞれについて率直で熱のこもった討論が行われました。

テーマ①「救急医療」

江府消防署生山出張所の河上所長から町内の救急出動件数は10年前から年間310～350件程度で推移し件数自体は大きく減っていない一方で、人口は約1千人減少しており、住民一人当たりの救急出動の割合は増加の傾向と説明がありました。

日南病院では月20～30件程度の救急搬送を受け入れ、90%を超える高い応需率で「できる限り断らない救急医療」を続けていることが紹介されました。また、救急医療を維持するには一定の病床数が必要であるとの意見も出されました。

テーマ②「病院の規模や診療所化」

病院規模を小さくしても一定数の医療スタッフは必要であり、簡単には縮小できないという現実が共有されました。

テーマ③「介護と広域連携」

身近に医療がある安心感や、他町でも医療・介護人材不足により十分なサービス提供が難しくなっている現状が示され、今後は日野郡内に加え、奥出雲病院や西城病院など、同じ中山間地域の病院との連携が重要との意見もありました。

テーマ④「小児科が毎日ない町で、どう安心をつくるか」

小児科の診療がない日でも内科医が対応できる体制や、まずは電話で相談してほしいことを説明しました。本年度始まった病児保育については評価の声がある一方、保育室の狭さや利用しにくい日があることなど、改善を望む意見も寄せられました。また、総合診療や切れ目のない小児医療体制について町民への分かりやすい周知が必要との意見もありました。

テーマ⑤「病院の建築・改築が与える影響」

「財源が無いからできない」ではなく、向こう30年を見据えて主体的に病院経営に取り組む覚悟が最も大切であるという意見が出されました。

また、病院建築をきっかけに職員が一致団結し、大きく成長することができたという経験談も紹介され、建物そのものだけでなく、職員や組織への影響が非常に大きいことが語られました。

テーマ⑥「最後の砦としての日南病院」

コロナ禍を通じて、町内に病院があることが町民の大きな安心につながっていることが改めて確認されました。日南病院が普段はお守りのような存在であると共に、いざという時には命を守る町の最後の砦であるという認識が共有されました。



日南病院のこれからを考えるシンポジウム ともに考える最後の砦「日南病院」

12月17日（水）日南町健康福祉センターを会場に町民の皆さんをはじめ鳥取県、町、病院の職員等約120名の方に参加いただき開催しました。今回のシンポジウムでは、日南病院の現状やこれからの地域医療について、皆さんと情報を共有し、「もしものときに頼れる存在」として、病院がこれからのどのような役割を果たしていくのかを一緒に考えました。医療だけでなく、福祉や介護とも力を合わせながら、これからも安心して暮らし続けられる地域をつくっていくために、地域全体で支え合う大切さを改めて考える機会となりました。



【第一部】 基調講演

テーマ「我が国の医療情勢とこれからの展望」

総務省派遣の経営アドバイザー日高武英氏（島根県公立邑智病院副院長）に講演していただきました。医療を私たちの暮らしを支える大切な社会インフラとして捉え、公立病院が地域の中で果たす役割や、町が病院を支えることの大切さについて、具体的な数字や実例を交えながら分かりやすくお話ししていただきました。参加された方からは、「病院が町にとってどれほど大切な存在なのかを改めて実感した」「病院経営や医療のデジタル化、地域の雇用や経済効果といった視点が参考になった」といった声をいただきました。



【参加者アンケートから】

今回の討論会は、テーマを絞った進行と多様な立場からの意見交換ができたことで、有意義だったという評価が多く寄せられました。一方で、福祉・介護分野の視点が十分でなかった点や、町民がより参加・発言しやすい開催方法の検討、職員の意見を聞きたかった、今後も継続して開催してほしいという意見も見られました。

【最後に】

今回のシンポジウムを通して、日南病院がこれからも町民の命と暮らしを支えるためには、医療・介護・子育てを切れ目なくつなぎ、地域全体で支えていくことの大切さが改めて共有されました。病院としても、引き続き安心して暮らし続けられる地域医療のあり方を、町民の皆さんと一緒に考えていきます。